柏崎小

主体的に学び合う柏っ子の育成

～問いの意識と“わかった”笑顔が生まれる授業づくりの工夫～（２年計画の１年次）

校　長　　南舘　義孝

１　研究主題について

本校では、教育目標に「夢をもち　自分を育てる柏の子」を掲げ、発達の段階や個性に応じて「夢」をもち、自分の心の中の「三本の苗木：やる気・根気・勇気」を育て広げる教育を行っている。今年度は、昨年度の研究の成果と課題を受け、研究主題を「主体的に学ぶ柏っ子の育成」から「主体的に学び合う柏っ子の育成」とし、共同的な学びをより深め、日常の授業改善を繰り返しながら子どもを育てる取組を行っていくものとした。

昨年度の校内研究では、国語科に焦点をしぼり、児童が主体的に学んでいくために、読み取る力を育てる効果的な指導の在り方についての実践研究に取り組んだ。それにより、読み取る必要性を高めるために、思考のズレを生かすなどの課題設定の工夫、問い返しやゆさぶりなど発問の吟味の重要性を確認することができた。

今年度は昨年度の課題設定の工夫を継続した上で、教科を国語科と算数科に広げることとした。そして「主体的に学ぶ」姿をさらに追究するため、学習問題の設定と自分の立場（考え）を明らかにした上で、授業に取り組む児童の姿を共有することにした。また、個で考えを収束させるのではなく、「学び合い」を経て多様な考えに触れ、自分の考えを見つめ直す「変容」の姿についても明らかにすることとし、本主題及び副題を設定した。そのために、研究授業の参観の際には教師の働きかけだけではなく、児童一人一人の姿に着目し、事実の収集に努めて検討するようにした。

２　研究のねらい

児童が主体的に学びに向かい、読み取る力をつけていくための効果的な指導の在り方を国語科・算数科の授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

児童の追究意欲を喚起する課題設定や、人や教材と向き合う場面を取り入れることにより、主体的に学ぶ児童を育てることができると考える。

４　研究内容

(1) 問いの意識を大事にした働きかけの工夫

ア　問いを生み出す発問の仕方・教材提示の工夫

イ　児童にとって必要感のある課題設定（問いの共有）

(2) 人や教材と関わり、一人一人の変容を促す「学び合い」の工夫

ア　変容を意識するための、立場の相違の可視化・顕在化を生かし、思考を再構築させる工夫

イ　個に応じた指導・手立て

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者等
6	22	授業研究（４学年）算数科「垂直・平行と四角形」／講師　細越　一貴
6	29	授業研究（３学年）算数科「表とグラフ」／教諭　須藤　大貴
7	6	授業研究（２学年）算数科「図を使って考えよう」／教諭　渡辺 柚
9	28	授業研究・要請訪問（５学年）講師：八戸市総合教育センター副所長　松橋　祐哉氏 算数科「直角三角形の面積」／教諭　下村　亘
11	2	授業研究（１学年）国語科「ともだちのこと　しらせよう」／教諭　丹波　美夏

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
5	25	スクリーニングに関する研修 講師：SSW　髙野　康一氏
7	20	体育指導に関する研修 講師：本校校長　南舘　義孝、体育主任　松橋　海渡
8	19	県小学校教育課程研究集会（資料研修）
8	31	県学習状況調査の採点・分析・考察
12	7	１人１台端末活用についての研修 講師：石井一二三　主任指導主事

６　研究の成果

(1) 児童は、自分の立場を明確にすることで、他者との違いを意識して考えを広げたり、多様な理由に触れて考えを深めたりして、主体的に学習に取り組むことができた。また、教師は「主体的」の捉えとして、「興味・関心だけではなく、粘り強く、自ら学びを調整してくものである」ということを児童の姿を通して共有することができた。

(2) 児童は、「学び合い」の場面によって授業の導入からの変容が見られ、試行錯誤しながら問題の解決に向かうことができた。また、教師は「学び合い」とは「話合い」だけではなく、それも含めて多様な考えに触れることであることを明らかにすることができた。

７　研究の課題

(1) 児童が主体的に学び続けていくための学習課題について、導入だけではなく、展開においても児童の問いの変化を意識しながら、追究を継続していく必要がある。

(2) 学び合いを単なる意見交換で終わらせず、考えを深めていくことが大切である。そのために、１人１台端末などのＩＣＴ活用や場の設定など、学び合いの効果的なあり方について研究を進める必要がある。

（記入者　下村　亘）